

授業概要

科目名		言語聴覚障害概論				授業の種類	演習	講師名				
授業回数	30	回	時間数	60	時間	2	単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	ST1年	通年
【授業の目的・ねらい】 言語聴覚障害の基礎知識を習得し、評価・診断および臨床の流れと基本的な手法について理解できる。 国家試験に則した基礎的知識を身につける。												
【実務者経験】 言語聴覚士としてこども発達サポートセンター、野間こどもクリニックなどで発達障害児の言語聴覚療法に従事経験。												
【授業全体の内容の概要】 言語聴覚士の業務に関わる基礎的な知識を習得するとともに、関連法規や倫理観を学ぶ。 言語聴覚士に必要な国語表現を身に着ける。												
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 言語聴覚士業務について説明することができる。 問われた内容に対し、適切な国語表現ができる。												
回数	講義内容										準備物(教材)	
1	オリエンテーション・医療漢字・医療用語										概論 教科書	
2	言語聴覚障害とは・言語聴覚士とは(基本理念・職務・倫理・リスク等)										概論 教科書	
3	言語聴覚障害とは・言語聴覚士とは(基本理念・職務・倫理・リスク等)										概論 教科書	
4	言語発達障害①(定型発達について)										言語発達障害学教科書	
5	言語発達障害②(定型発達・ASD)										言語発達障害学教科書	
6	言語発達障害③(ASD)										言語発達障害学教科書	
7	言語発達障害④(ASD)										言語発達障害学教科書	
8	言語発達障害⑤										言語発達障害学教科書	
9	言語発達障害⑥										言語発達障害学教科書	
10	言語発達障害⑦										言語発達障害学教科書	
11	言語発達障害⑧										言語発達障害学教科書	
12	言語発達障害⑨										言語発達障害学教科書	
13	言語発達障害⑩										言語発達障害学教科書	
14	言語発達障害⑪										言語発達障害学教科書	
15	言語発達障害⑫										言語発達障害学教科書	
16	聴覚障害の概念について説明できる										テキスト	
17	言語聴覚士法について説明できる										テキスト	
18	言語聴覚士の発展について説明できる										テキスト	
19	コミュニケーションの成り立ちについて説明できる										テキスト	
20	言葉をどのようにして発するのか説明できる										テキスト	
21	飲み込みと摂食嚥下機構について説明できる										テキスト	
22	聞こえと聴覚機構について説明できる										テキスト	
23	言語と脳について説明できる										テキスト	
24	失語症について説明できる(症状、タイプ)										テキスト	
25	失語症について説明できる(検査・訓練)										テキスト	
26	高次脳機能障害に伴うコミュニケーション障害について説明できる										テキスト	
27	高次脳機能障害の症状についてどのようなものがあるか説明できる										テキスト	
28	声が出る仕組みについて説明できる										テキスト	
29	構音障害、吃音について基本概念を説明できる										テキスト	
30	摂食嚥下障害の発症メカニズムについて説明できる										テキスト	
	定期筆記試験											
【使用教科書・教材・参考書】 『標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害概論』 『標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第3版』												
【準備学習・時間外学習】												
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】												
試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、 60点以上の場合に科目を認定する。												